

地域の未来を切り拓く 自立した児童の育成
～起業家教育 会計主任としての関わり～

福島支部：下郷町立江川小学校
主事 岡 ゆみえ

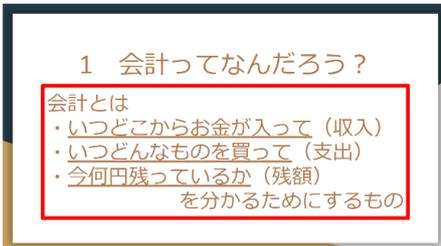
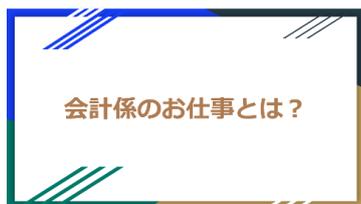
【背景と目標】

本校は教育目標「地域の未来を切り拓く 自立した児童の育成」のもと、起業家教育に取り組み3年目になりました。5・6年生の児童が「下郷町を観光客がたくさん来てくれる町にしたい！」との思いで町おこし活動に力を入れています。また、この活動に必要な資金を自分たちで調達するため、野菜販売をしています。

昨年度野菜販売をした際に、売上金管理や支出処理などの業務が多岐にわたり担当教員の負担が大きいことや、現金の管理面で、課題がありました。この課題を解決するため、今年度から会計主任として起業家教育に関わることにしました。事務職員が会計主任として関わることにより、児童が野菜販売を通してお金の大切さを学ぶことができたり、教員の多忙化解消につながったりするのではないかと考え取り組みを始めました。

【協働・取組】

始めに、児童自身が会計の必要感、重要性を実感できるように、会計の業務内容を説明する機会を設け、会計係を各学年1名ずつ選出しました。



会計主任として児童に関わるにあたり留意したことは2つあります。1つ目は、児童に会計業務を説明する際に、発達段階を考慮して、言葉を選ぶことです。言葉を選んで説明しましたが、会計事務は、専門的な用語を使っていることが多いことに気づきました。「出納簿」や「入金伝票」、「支出調書」など事務職員として当たり前に使っている用語を、分かりやすい言葉で表すことが難しかったです。

～ 会計係のお仕事 ～

1. 仕事の内容

- 毎月やること
 - ・ 現金を数え、金額確認表を書く
 - ・ 出納簿の残額と現金が同じになっているか確認する
- 野菜が売れたときにやること
 - ・ 売上を数える
 - ・ 入金伝票を書く
 - ・ ケースに売上金をしまう
 - ・ 出納簿に記録する
- 物を買う・買った時にやること
 - ・ 出納簿の残金を確認する
(物を買ったり支払ったりは先生がします。)
 - ・ お金を払った後、出納簿に記録する

【会計係の業務内容説明資料】

2つ目は、あえて預金口座を使わず、現金での会計管理にした点です。その理由は、児童にとって関わる機会の少ない預金口座（通帳）よりも現金の方が身近にあり、理解しやすいと考えたからです。そうすることで、野菜が売れると現金が増える喜びを味わい、種や苗・肥料など、元手になるものや栽培に必要なものを買うと現金が減ることを経験させました。実際に現金を扱ったことにより、具体的なお金の流れが理解しやすい活動になったと思います。また、会計係の児童とともに現金と出納簿の残額が一致しているかを必ず月1回は点検し、ミスに気付けるようチェック体制を整えました。しかし、現金管理は課題も多いため、例えば年度末時点で一度預金口座に入金し、次年度始めに払い戻して現金を扱うなどの方法も検討していきたいと思います。

具体的な会計係の業務内容は、現金の確認や、出納簿の入力から始めました。現在は会計業務の専門性を向上させるため、支出調書の作成も行っています。出納簿は、共同編集ができる点や確認がタイムリーにできることからGoogleのスプレッドシートを使用しています。

	A	B	C	D	E	F	G
1			起業家教育会計 出納簿				
2	(いつ)	(どんなものを)	(売った)	(買った)	(残り)	(番号)	
3	日付	内容	収入金額	支出金額	差引残額	No.	
4	4/1	繰越金 (前年度の残金)	¥6,586		¥6,586	1	収入は1, 2, 3...
5	4/21	コインバンク (セリア)		¥110	¥6,476	①	支出は①, ②, ③...
6	5/11	画、ポット、種 (コメリ)		¥1,334	¥5,142	②	
7	5/11	野菜の土 40リットル (コメリ)		¥698	¥4,244	③	
8	5/30	野菜の土 (コメリ)		¥698	¥3,346	④	
9	6/12	ラディッシュ売上金	¥2,430		¥5,776	2	
10	6/20	アケリアス (ツルノ)		¥1,353	¥4,423	⑤	
11	6/29	野菜の土、ラディッシュ種		¥1,046	¥3,377	⑥	
12	7/18	ジャガイモの売上金	¥4,970		¥8,347	3	
13					¥8,347		
14					¥8,347		
15		合計	¥13,986	¥5,639	¥8,347		

【実際に作成している出納簿】

学校事務実践事例（令和5年度）コピー・転載禁止

授業参観の際には、栽培したじゃがいもを保護者に販売しました。常に消費者側であった児童が「物を売る」ことの難しさや接客におけるコミュニケーションの大切さを学ぶ事ができました。児童は、お釣りの計算は算数の授業で学んだことが生かせると気づきがあったようです。



【じゃがいも販売の様子】

学期末には決算処理を行いました。1学期の収入・支出内容を点検し、現金を数え、処理内容を振り返りました。その後、管理職の会計検閲を受け、適切に執行されていると確認していただきました。検閲の際に管理職から「会計係として学んだことは何ですか」と問われ、児童は会計を管理する責任の重さや、やりがいなどを伝えていました。



【校長室での会計検閲の様子】

【成果と課題】

会計主任として事務職員が起業家教育に関わることにより、月1回の点検や学期末の会計検閲などを行い、会計の安全性が向上しました。指導に関する事は担当教員が行い、会計に関する事は事務職員が行うように役割分担を見直したことにより、教員の多忙化解消につながりました。また、会計係の役割を児童に与えたことにより、責任をもって活動に向き合い、算数では教えられないコストの問題

や、お金の意味を学ぶことができたと思います。出納簿の作り方を教えた児童の1人は、実際におこづかい帳を作成してみたと教えてくれました。会計主任として伝えたことが、日常生活に反映され、生きる力につながっていることが実感できました。

担当教員からは、現金確認だけではなく、出納簿入力や管理などより実生活に行かせる活動になった。担当の負担軽減にもつながり、児童が専門的な知識を得ることができる良い経験になったと評価していただきました。

管理職からは、担当の負担軽減はもちろんのこと、全職員で教育目標の達成に向かうという一体感を生み出す素晴らしい取り組みと評されました。

課題としては、担任との打合せや関わりのねらいが不明確であったため、準備をしすぎてしまい、児童が考える機会を奪ってしまったことがありました。2学期以降は、児童が意思決定する機会を意識的に増やしたいと思います。

【教訓】

活動をする上で、担当教員や管理職との円滑なコミュニケーションが不可欠です。情報を共有し、ねらいを明確にしていくことで、より効果的かつやりがいのある活動になるよう引き続き連携していきたいと思います。

児童に会計の内容を説明するためには、発達段階を考慮し簡潔に伝えなければならないということを学びました。また、会計主任として主体的に学校運営に参画することにより、行政職としての専門性を発揮し、児童の生きる力の育成につながったと考えます。今後も、教育目標の実現に向けて、児童が地域に愛着を持ち自ら課題解決ができるような環境づくりをし、特色ある取り組みを続けていきます。



【レタスを植える児童の様子】